

# 都市部における銭湯の在り方



DZ21677 塚田 大登

## Keywords

銭湯 地域コミュニティ 都市  
地域活性化 裸の付き合い

### 1. はじめに

お風呂は、日本古来続く伝統文化である。今や各家庭に一つの湯船や浴室があるが、昔は公衆浴場を日常のお風呂として使っていた。その中でも、今は失われつつある銭湯について、これから都市部における在り方を示していく。

### 2. 問題背景

#### 2.1 地域コミュニティの場「銭湯」

風呂の始まりは古く、6世紀に渡来した仏教から始まった。汚れを洗うことが仏に仕える者の大切な仕事の1つとして、初めに寺院で浴堂が作られた。そこから庶民にも入浴の文化が広まり、平安時代の末には「湯屋」、江戸時代には「銭湯」が広まった。明治、大正と時代が変わるごとに銭湯は近代化されるが、「町ごとに風呂あり」と言われるほどの入浴の文化と、風呂上りに広間で茶を飲んだり菓子を食ったり、将棋を楽しんだりする社交場として、庶民の大切な憩いの場であった。そんな銭湯であるが、家庭風呂の普及や、施設の老朽化、地価や燃料費の高騰、後継者不足などにより、1960年代後半をピークに数は減少をたどっている。

#### 2.2 銭湯数の激減

全国でも数多くの銭湯があったが、中でも一番多くの銭湯の数と人口を誇る東京に絞って、1976年から現在まで、東京における銭湯の数の推移を図1に示す。

1960年代後半、銭湯の数は最もピークを迎える。それに伴い、東京でも銭湯の数は最盛期を迎え、1976年には約2500軒もの銭湯があった。しかし、そこから年々銭湯の数は減少し、2022年には約500軒と、およそ1/5の数になってしまった。

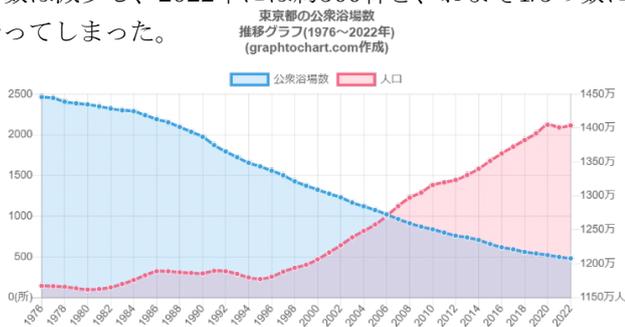


図1 東京都の公衆浴場数推移グラフ

### 2.3 東京都内23区における年代ごとの銭湯の数の推移 次に東京都内で詳しく見ていく。

#### (1) 都内の銭湯現存率

図2に、1965年から2018年において、23区内の銭湯の現存数を示す。現存する銭湯の数を、1965年次における銭湯の数で割った値を現存率とすると、一番現存率が高いのが荒川区で、現存率は18.6%、現存数は22軒であった。その後現存率18.4%現存数29軒の板橋区、現存率18.1%で現存数21件の練馬区が続いた。

一方、現存率が低い区は、文京区が現存率5.2%の現存数4軒でワースト1位となり、それに現存率5.3%現存数4軒の港区、現存率6.3%現存数3軒の千代田区が続いた。

	a	b	c	d	e	f	g	h
	現存(軒)	廃業(軒)	合計(軒)	現存率(%)	面積(k㎡)	軒数/面積(k㎡)	人口(万人)	軒数/人口(1万人)
千代田区	3	45	48	6.3	11.66	0.26	61.420	0.488
中央区	8	61	69	11.6	10.21	0.78	151.484	0.508
港区	4	71	75	5.3	20.37	0.20	253.940	0.158
新宿区	20	107	127	15.7	18.22	1.10	343.404	0.582
荒川区	22	73	95	23.2	11.29	0.95	227.224	0.174
台東区	24	114	138	17.4	10.11	1.37	702.210	1.181
墨田区	18	116	134	13.4	13.77	1.31	764.515	0.680
江東区	21	109	130	16.2	40.16	0.52	510.692	0.411
品川区	22	124	146	15.1	22.84	0.96	398.732	0.552
目黒区	10	66	76	13.2	14.67	0.68	283.133	0.353
大田区	35	194	229	15.3	60.83	0.58	728.437	0.480
世田谷区	25	195	220	11.4	58.05	0.43	921.708	0.271
渋谷区	11	88	99	11.1	15.11	0.73	229.994	0.478
中野区	20	99	119	16.8	15.59	1.28	335.813	0.596
杉並区	19	122	141	13.5	34.06	0.55	575.651	0.230
練馬区	21	100	117	18.0	13.01	1.31	297.946	0.571
板橋区	29	126	155	18.7	20.61	1.18	348.274	0.689
国分寺市	22	96	118	18.6	10.16	2.17	218.098	1.018
板橋区	29	129	158	18.4	32.22	0.90	573.966	0.505
練馬区	21	95	116	18.1	48.08	0.44	731.360	0.287
足立区	29	199	228	12.7	53.25	0.54	577.536	0.428
東野区	24	140	164	14.6	34.80	0.65	450.815	0.532
江戸川区	32	140	172	18.6	49.90	0.64	690.614	0.463
計	456	2539	2995	15.2	619.00	0.74	9,482.125	0.481
平均	19.8	109.6	129.4	15.3%	26.90	0.74		

■ 現存率の高い3区 ■ 現存率の低い3区 人口数：2018年3月1日時点

図2 都内23区における現存する銭湯の数

#### (2) 都内の銭湯立地密度

次に、銭湯の立地密度について写真1にデータを占めず。面積1km<sup>2</sup>あたりの銭湯数「銭湯立地密度」が、最も低い区は0.20軒で港区、それに続いて0.34軒で千代田区。0.46軒で練馬区となった。密度が最も高い台東区の2.57軒と比べると、いかに中心街の港区や千代田区に銭湯の数が少ないかが分かる。これには地価が高騰し、銭湯以外のより収益が見込める施設へ変わっていくと考えられる。



写真1 都内23区における銭湯立地密度

### 3. 対象敷地の選定

今回は都市部における銭湯とその周辺環境を対象を絞り、中でも銭湯現存率と銭湯立地密度が共に低い港区を対象とする。また、私自身の地元が港区三田エリアであり、その地域にある「万才湯」の跡を対象敷地とする。写真2が1960年代の三田エリアの銭湯の様子だ。

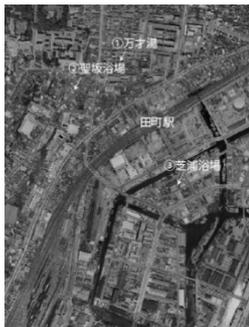


写真2 1960年代港区三田エリアにおける銭湯の地図

#### 3.1万才湯の変遷

1960年代から、10年ごとに変遷を見ていく。1960年代は多くの同じ形の屋根が並び、住宅街だったのが分かる。そこから少しずつ周囲の建物が変わっていき、現在このあたりは商店街になっている。昔ながらのお店も残るが、多くは飲食店、特に居酒屋である。焼肉屋が特に多く、またラーメン屋さんも多かった。その後万才湯は2016年に廃業した。

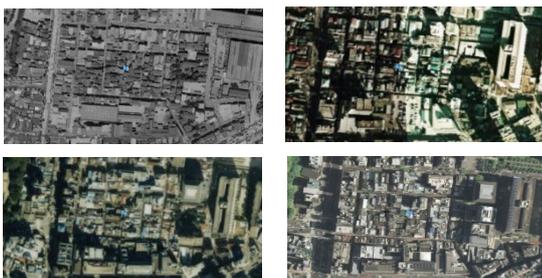


写真3.4.5.6 万才湯の変遷

### 4. プログラム

今まで地域に1つはあって、人々の居場所になっていた銭湯が失われつつある。その地域に住む地域の人や、学生やビジネスマン、都市部で忙しない日常にこそ、一息つける銭湯が必要なのではないか。本研究では、この万才湯跡地に、新たに銭湯のプログラムを提案する。

- ・敷地面積:約237㎡
- ・延べ床面積:約645㎡
- ・諸室面積合計:約2800㎡

### 5. 配置計画

1階には足湯を中心に、商店街の通りに開いた足湯カフェ&足湯barを、2階には男女が水着着用で一緒に入れるスパのような空間を配置した。そして3階には男女分かれる銭湯のプログラムの設計をしている。それぞれのフロアでそれぞれの空間が広がり、その時の気分や状況に応じて「足湯」「スパ」「銭湯」のお湯の空間が、来る人々を癒し、その人達の居場所を作る。

### 5. 終わりに

今は失われつつある銭湯について。都心部の地域にこそ、地域コミュニティの場や人と人との繋がりが大切になってくると感じる。そのため今回の提案がこの地域の学生や社会人、地域の人々の集う場の役割を果たせたらと思っている。そしてこの銭湯をきっかけに、より多くの人へ銭湯の魅力が広がることや、その先に色んな場でも人が人を大切にでき、自分らしく生きていける人が増えていくことを、切に願っている。

#### 参考文献

- 1) グラフで見る東京都の公衆浴場数  
URL : <https://graphtochart.com/japan/tokyo-no-of-public-bathhouses.php#chartno-of-public-bathhouses>  
(2024年7月12日閲覧)
- 2) 東京銭湯「銭湯の歴史」  
URL : <https://www.1010.or.jp/guide/history/>  
(2024年7月12日閲覧)
- 3) 今井健太郎 (2020) 『銭湯空間』株式会社KADOKAWA P.121

## 都市部における銭湯の在り方

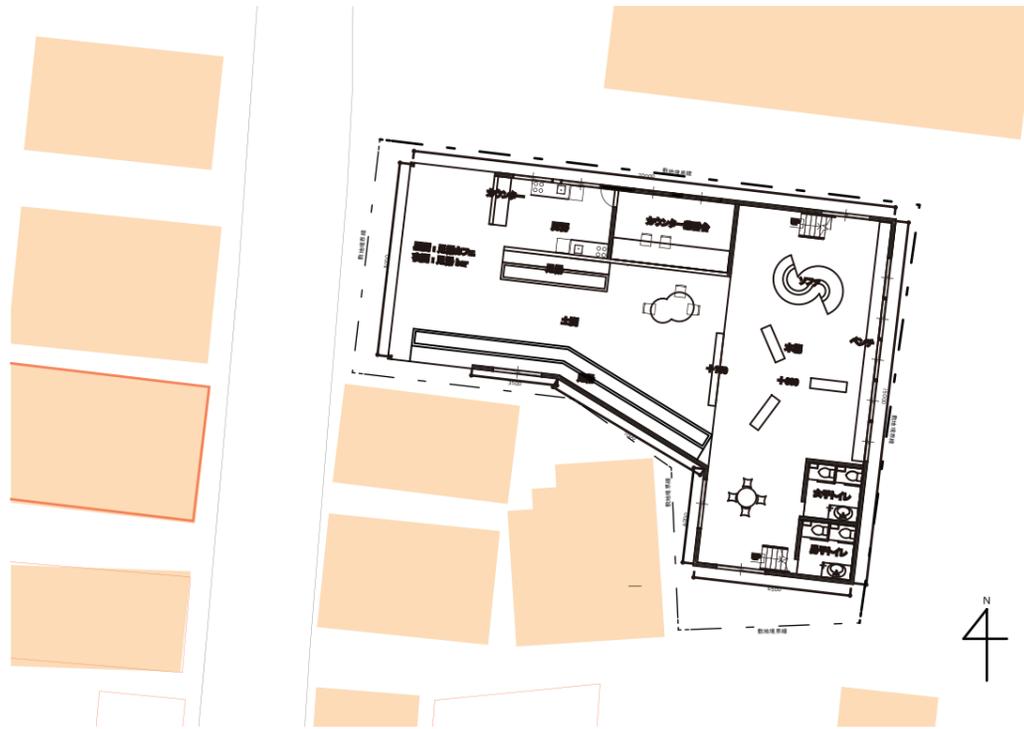
東京港区芝の商店街に、新たな銭湯を提案する。

かつて約90年続いた「万才湯」の跡地で、大学やオフィス、住宅が近隣にあるこの場所に「誰でもふらっと立ち寄れる銭湯」を設計。

通りから入りやすく、内部では落ち着ける空間を展開し、スパや銭湯エリアへ自然に回遊できる設計とした。

忙しい都心で、心身をリフレッシュできる居心地の良い場を提供することを目指している。

### 配置図



### 模型写真



### 断面図

